

第6次羽咋市総合計画(素案)に係る意見募集結果について

- 1 募集期間 令和3年1月8日(金)～2月12日(金)
- 2 意見提出者数 7人
- 3 意見等の概要及び回答

No.	項目	意見の概要	回答
1	総論	第6次総合計画(素案)を拝読致しました。 本計画は「ひと・まちづくり」を核に作成されるなど全体的によくまとめられており、まずは作成に携われた皆様に感謝と敬意を表します。	本計画をご確認いただき感謝申し上げます。 今回の計画策定に当たり、審議会の皆様の総意のもと、まちづくりの基本は「ひとづくり」という考えを核に据え、計画策定を進めてまいりました。今後10年は急速な変革期となると思われませんが、その礎となる「ひとづくり」をしっかりと進めることにより、持続可能な羽咋市を創造していくことができるものと考えております。

No.	項目	意見の概要	回答
2	総論	<p>ホームページより、第6次羽咋市総合計画(素案)を拝読いたしましたので、僭越ながら感じたことを述べさせていただきます。</p> <p>【意見内容】 公表されている(素案)は、少子高齢化で人口減少が進む羽咋市の現状を分析し将来にわたって羽咋市に「住み続けたい」と思える持続可能な「ひと・まちづくり」の今後10年間の方策が、現況と課題を検証して分かり易くまとめられていると感じます。 ここに提案されていることが全て実現可能であれば、素晴らしい「羽咋市」ができ上がると思いますが、現実には人的にも予算的にも限りがあり、今後この中から「選択と集中」でどの施策を優先的に実施していくかが検討されると推察いたします。</p> <p>そこで私なりに羽咋市の「強み」と「弱み」を考察してみました。 「強み」は歴史と文化財が息づき、心を癒す豊かな自然と、日本で唯一の渚ドライブウエーがある、自然災害の少ないコンパクトな自治体だと言うことです。 国指定の寺家遺跡、大伴家持が巡幸した能登国一之宮 氣多大社、前田家ゆかりの日蓮宗本山 妙成寺、曹洞宗石川県宗務所 永光寺に、水なし、塩なし、まったなしで2000年の歴史がある唐戸山相撲場等があり、羽咋ゆかりの偉人も多くいる。</p> <p>交通面では新幹線で賑わう金沢から車で1時間以内、JR七尾線では特急で40分と至便であり比較的土日も安い。子供の学力は全国トップクラス、市役所の職員は少ない人数で良く頑張っており、財務内容は健全、郷土愛を持つ市民も多く市民参加型のセミナー等が開催されている。関東・関西・東海に「羽咋会」という応援団がいる。 医院や歯科医も人口の割には多く、大型・中型スーパーも4店あり、かほくイオンには30分で行ける。最近では、道の駅「のと千里浜」や「神子の里(神子原農作物直売所)」が注目されており、贅沢な暮らしを望まなければそれなりに住み易い町だと思います。</p> <p>一方「弱み」は企業が少ないので人口が減少し続けている。若者が流出(特に女性)しているので出生率が低い。産婦人科がない。半世紀に渡って無駄な政争が繰り返されており、道路網を含むインフラ整備が遅れている。全国チェーンのお店(ミスタードーナツ・サーティワンアイスクリーム)が撤退した。地元の商店街に元気がない。娯楽施設が少ない。相撲の雷電震右衛門の石碑がなぜ野球場の近くにある。羽咋ゆかりの偉人を市民は知らない。絵画・書の愛好家が作品を発表する場所がない。健康維持のためのスポーツ施設等が少ない。るんるんバスを運行しているが利用者は少ない。高齢者が免許を返納できる環境にない。</p>	<p>本計画をご確認いただき、また貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。</p> <p>当計画は本市の最上位計画に位置づけられる計画であるため総花的となり、あらゆる分野を網羅する形で作成されております。</p> <p>この計画をより実行性のあるものとして機能させるためには、ご指摘のとおり、限られたマンパワーと予算をいかに「選択と集中」させるかということが問われてまいります。</p> <p>と同時に、行政だけでできることは限られており、今後は市民の皆様がより主体的・積極的に「ひと・まちづくり」に関わっていただくことが重要であり、よりよい羽咋市となるよう「共創」という考え方にに基づき、政策形成していく必要があると考えております。</p> <p>頂戴いたしました羽咋市の「強み」や「弱み」につきましても、全庁的にも共有し、「強み」を伸ばし「弱み」を克服し、まちの発展にまい進してまいりたいと思います。</p> <p>今回、詳細な分野にいただきましたご意見につきましては、各分野で策定される個別計画等の参考とさせていただきますと考えておりますので、ご理解願います。</p>

No.	項目	意見の概要	回答
		<p>以上、思いつくまま上げてみましたが、「強み」を伸ばし「弱み」を克服すれば町は発展するはずですが、そのためには、市役所と市民が「共創」するシステムを体系化し実行して行くことがポイントになると思います。</p> <p>次に、駅前マルシェ跡地等の活用策を提案させていただきます。</p> <p>○羽咋にゆかりの偉人である、東 善作(飛行家)、折口 信夫(民俗学者・国文学者・歌人)、子の春洋、倉部東雲(俳人)、西村忠兵衛(廻船業)、野村直吉(南極探検家)、宮崎兼吉(医師)、向江璋悦(弁護士)、山崎雲山(画家)、山本映佑(風の子原作)(敬称略)等のことを、もっともっと地元の皆さんに知ってもらわなければならないと考えます。</p> <p>できれば映像でそれぞれの方の功績を紹介できるようにすれば良いと思います。</p> <p>○健康面では、人生100年時代を迎えて、健康寿命を増進するため多目的ホールを設け、体を動かすことができる設備・器具を設置すれば良いと考えます。能登の冬は天候が良くないので、どうしても自宅に籠りがちになります。それでは筋力が衰えるので、施設内に周回できるウォーキングコースもあれば効果的と考えます。</p> <p>また、この運動施設をユーフォリアに隣接した場所に設置すれば、汗をかいた後にお風呂に入れるので相乗効果が期待できますが、併せてご検討ください。</p> <p>また、市内11の公民館を活用して「筋力アップ体操教室」を定期的に開催するのも健康維持に効果的だと考えます。市民が健康を維持できれば、医療費の節減にもつながります。</p> <p>次に、通勤・通学の市民や生徒が気軽に立ち寄れる図書館と学習室があれば良いと考えます。読書するには電車の中が最適です。コスモアイルにある図書館の別館という位置づけでも結構なので、駅周辺にあると便利です。また、羽咋市の生徒は学力が高く勉強熱心ですから、電車・バス待ちの時間に利用できる学習室もあればと思います。また、コロナ禍のテレワークに活用できる場所があると助かります。</p> <p>○将来を見据え歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりには、都市機能と住民が暮らしている地区との公共交通機関による移動手段が必要で、交通事故撲滅を目指すには高齢者の免許返納が必要です。現実、市内を運転していてヒヤッとしたことが数多くあります。しかし、今の羽咋市の現状では、どこへ行くにも自家用車は不可欠です。この解決策には、るんるんバスを運行回数も含めて見直して、主なコースとして、市内各エリア→マルシェ跡地(駅)→市役所→羽咋病院→買い物(ショッピングセンター等)→マルシェ跡地(駅)→道の駅→ユーフォリア→市内各エリアを循環すればどうでしょうか。るんるんバスに経費が掛かるなら小型のタクシーを活用するのも効果的かと考えます。</p> <p>以上、いろいろ述べさせていただきましたが、いずれにしてもJR羽咋駅に近く旧国道415号線にも面するこのマルシェ跡地は、地域交流の拠点として最適でありこれを有効に活用しない手はありません。</p> <p>まさかの時の防災拠点としても活用できるよう最新の防災設備を設置しておけば、市民にとって正に鬼に金棒の「安心の拠点」とも言えるのではないのでしょうか。</p> <p>市役所と市民の英知結集して、素晴らしい施設ができることを祈念いたします。</p>	

No.	項目	意見の概要	回答
3	総論	<p>今後10年間市民と協働するためには市民が意欲を掻き立てられるキーワードが必要 現状分析やこれまでの取り組み状況は記載されているが、今後10年間に市民と協働で取り組んでいこうとするうえで必要と思われる「夢」や「希望」を感じさせる意欲を掻き立てるコメントがない。第5次総合計画の報告書のように感じてしまった。</p> <p>羽咋市では早くから「市民と協働のまちづくり」をキーワードに市民に働きかけてこられた。それを今回は「共創」を提案されていますが、「共創」からは「競争」を思い浮かべてしまいます。 加えて「市民が主体となって取り組む活動に対して行政が支援する「共創」システムを体系化していく」としているが、市民による主体的な取り組みが発現するのを待っているということですか。 市民の主体的な活動をどのように創造させるのか。どのように市民に声をから、市民の声を聴いていくのか。その思いが伝わらないのでないか。 市民の声に耳を傾け、要望を的確に把握するためには、市役所職員が市民の中へ出かける行動力が必要になる。そこで見出した意見を羽咋市の施策にしていくことが求められている。今後作成される個別計画においてより具体化するうえでの方針を盛り込むべきである。 繰り返しになるが、現状と課題の取りまとめで、今後10年間で取り組む内容を「施設の方針」としているが、頑張る羽咋総合計画から転記しただけのように感じる。</p>	<p>貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。 さて、今回の計画策定にあたりまして、過去の取り組みの検証や市民の皆様の見の変化が分かるように序論の部分で記載させていただきました。 特に住民意識調査においては、第5次総合計画との比較を掲載することにより、検証に役立てられるようにしました。その中で「市民の意見や要望が市政に反映されているか」という設問において、「反映されている」というポイントが前回調査と比較減少していることを危惧しており、今後はいかに市民の声を聴きながら、市政に反映していくかということを重要視してまいりたいと考えております。 その上でも、各種施策を行う場合には、地域に市職員が出向いて声をお聴きしたり、行政情報発信の強化などの取り組みが求められるものと認識しております。と同時に、市民の方々がどのような施策を求め、実際に取り組もう、取り組みたいと考えているのかを把握しながら、共に羽咋市を創造していくことが必要であると考えております。 そのため基本構想で、【共創による「まち・ひとづくり」と新技術による市民サービス向上】を、全ての施策で縦断して取り組む「基本目標を支える仕組み」としました。 今後市政運営を進めるうえで、限られたマンパワーと予算をいかに「選択と集中」させるかが問われてまいります。 行政だけでできることは限られており、今後は市民がまちづくりの主人公となり、より主体的・積極的に「ひと・まちづくり」に関わっていただくことが重要であると考えており、より良い羽咋市となるよう「共創」という考え方にに基づき、政策形成する必要があると考えております。 なお、総合計画は市の最上位計画であるため、先行して策定された「がんばる羽咋創生総合戦略」やその他の計画と整合性を取っているため、引用する部分があることをご理解いただきたく存じます。</p>

No.	項目	意見の概要	回答
4	総論	<p>パブリックコメントの求め方について 今回初めてパブリックコメントを提出にあたり、素案を通読しました。 公文書を読み慣れた私でも読み切るのに苦勞しました。読み手がわかりやすいように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従前の計画との相違点・改善点 ・今回の計画で特に重点を置きたいポイント <p>など今回の素案の中で特に市民から意見を募りたい事項を明確にしていきたい。</p>	<p>総合計画は、羽咋市の最上位計画に位置づけられておりますので、どうしても総花的になり、ボリュームが増す形となっております。その中でも、「序論」や「基本構想」の部の第1章部分には重要な事項を明記するようになっています。</p> <p>また、従前計画と大きく変更した点は、最上段の「基本理念」である羽咋市市民憲章のストーリーに沿うように「基本目標」を構成するよう改めました。</p> <p>なお、重点を置きたいポイントということではありますが、羽咋市では、「第2期がんばる羽咋創生総合戦略」を令和2年3月に策定しており、当戦略に本市が取り組む重点施策を記載してありますので、ご確認、ご理解いただければ幸いです。</p>
5	P33 【基本計画】 自然と共生する生活環境の保全	<p>(蛍、オオサンショウウオ)を(イカリモンハンミョウ、ホクリクサンショウウオ)に訂正してください。 希少生物に指定されている生物の中に、蛍という種類はありません。「ゲンジボタル」と固有名詞を書くべきです。しかし、羽咋市を代表するもっと貴重な希少生物がいます。本州では、柴垣から志賀町大島にかけての海岸にしか生息していない貴重な昆虫「イカリモンハンミョウ」です。全国にいるゲンジボタルより、インパクトがあります。また、羽咋市にはオオサンショウウオは自然界に生息していません。羽咋市で発見されたホクリクサンショウウオにすべきです。</p>	<p>ご指摘いただきありがとうございます。 ご指摘の文言を修正(P33)させていただきます。</p>
6	P36 【基本計画】 緑豊かな環境づくり	<p>・再整備に重点がおかれていますが、粟ノ保地区には公園がありません。他地区の公園の有無は承知しておりませんが少なくともすべての地区の一つは公園を整備頂きたい。</p>	<p>本市では、現在、都市公園改修整備方針を策定し公園の再整備等を行っており、主に羽咋運動公園では遊具整備等の機能拡充を図っているところであります。</p> <p>ご意見の公園整備(P36、37)につきましては、当計画内では個別公園の整備を明記することはできませんが、少子高齢化や人口減少等、社会情勢の変化もあり、公園に求められる役割・機能・規模についても徐々に変化しつつあることから、地区のバランスや公園の再編等を考慮し、総合的に検討してまいります。</p>

No.	項目	意見の概要	回答
7	P48 【基本計画】 全世代活躍のまちづくりの推進	<p>成果指標を、「羽咋市 市民提案型まちづくり支援事業の応募数」に変更することを提案します。</p> <p>少子高齢・人口減少が進んでいくなかで、市民と行政が協働して持続可能なまちづくりを進めていくことが緊急の課題になっています。そのために必要なのは、市民活動団体の登録数の増加よりも、市民活動団体等の活動の質の向上であると考えます。</p> <p>そのような観点から「羽咋市市民提案型まちづくり支援事業（以下支援事業）」を概観すると、この支援事業には「ひと・まちづくり」の仕組みが組み込まれていると思いました。</p> <p>この支援事業は、応募団体に事業計画書(3年間)等の作成とプレゼンを求めています。そして採択後には、毎年、前年度の事業報告書と今年度の事業計画書の提出並びにプレゼンを義務づけており、事業が修了するまで毎年続きます。</p> <p>この流れは、応募団体が企画した事業の目的に向かって、PDCAサイクルを回しながら自立・自律した活動(事業)になるような仕組みを取り入れているように思う。つまり、この支援事業を通じて、地域づくり人材を育み、住民主体の地域づくりを進めていると感じています。</p> <p>成果指標を「応募数」にしたのは、採択基準に達しない応募団体等はアドバイスをを行い、採択基準に達するよう時間をかけて支援する(再応募は次年度になっても)。そのことが、ひいては、市民活動団体等の質の向上につながり、この支援事業の目的につながると考えるからです。</p> <p>なお、この支援事業の目的(成果)は、住民の力を活かした持続可能なまちづくりの形成であり、そのため成果指標は、採択数よりも「応募数＝難易度が高い支援事業にチャレンジした数」ではないかと思っています。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>羽咋市では現在、羽咋市市民活動支援センターを設置し、市民と行政の協働による持続可能なまちづくりを進めるため、市民活動に対し助言やネットワーク形成などの支援を行っております。</p> <p>今回の成果指標(P49)に「市民活動団体登録数」を用いたのは、さらに市民活動の裾野を広げるためには、より多くの団体が組織され、市民活動に従事していただくことが重要であるという視点で設定いたしました。</p> <p>ご指摘いただきました「羽咋市市民提案型まちづくり支援事業」は、それら団体等が資金的な支援を必要とする活動に対して助成を行うため、平成29年度から創設された事業であり、これまでも多くの団体等にご活用いただいております。</p> <p>当事業では、採択された団体がPDCAサイクルにより、事業の質の向上を求め、特に事業の持続性や発展性を重視し、事業を進めていただいておりますが、市民活動支援センターでは、当事業に関する情報提供のほか、事業計画策定や運営に対する支援等を行なうとともに、市民活動団体登録に係る事務を行っております。</p> <p>今回は、上述のとおり、より一層市民活動の活性化を促すという視点で、「市民活動団体登録数」を成果指標といたしたいと考えておりますので、ご理解願います。</p> <p>なお、令和2年3月に策定された「第2期がんばる羽咋創生総合戦略」で、「市民提案型まちづくり支援事業数」を成果指標に挙げ、重点的に市民活動を支援していくこととしておりますことを申し添えいたします。</p>

No.	項目	意見の概要	回答
8	P54 【基本計画】 行政サービスの向上と効率的な行財政運営の推進	新地方公会計制度に基づく財務諸表について、連結会計に該当する全ての固定資産台帳及び個別会計毎の財務諸表も公開願いたい。また全体会計における類似団体数値も掲載願いたい。 経常収支比率を成果指標にすることは反対です。一般的に70～80%程度が理想とされていることは承知していますが、総計に記載すればこの数字が独り歩きする懸念があります。目標達成のために経常的収入の増加を安易に市民に求めたり、経常的経費を減らすために必要な投資を行わない恐れがあるからです。平成30年度財務諸表で全体会計基準において受益者負担比率7%、歳入額対資産比率3%となっており類似団体数値は分かりませんが少なくともこれと同程度になるよう行政を進めていただきたい。	貴重なご意見ありがとうございます。 新地方公会計に基づく財務諸表を現在公表しているところですが、固定資産税台帳等については、今後の検討課題とさせていただきます。 総合計画で、経常収支比率を成果指標(P55)として提示する理由といたしましては、市民サービスの低下を招くことなく、効率的な行財政運営を推進するための指標としての活用となります。市民サービスの低下を招かないことを第一義に捉えながら、財政の健全化にも努めようとするものであるということをご理解願います。
9	P57 【基本計画】 農林水産業の振興	施策の方針の主な取り組みに「地域資源の多面的機能の向上を図る支援」の追加をお願いします。	ご指摘いただきありがとうございます。 ご指摘の文言を追記(P57)させていただきます。

No.	項目	意見の概要	回答
10	P64 【基本計画】 多彩な交流の 推進	<p>人口減少対策と交流人口拡大による地域振興策としてJR七尾線の複線化を提案 北陸新幹線金沢開業により鉄道輸送の力をまざまざと見せつけられた。国内外を問わず、多くの観光客が石川県を訪れ、地域経済の活性化を感じた人が多くいると思う。しかし、コロナ過にあって、その逆に苦しんでいる状況が続いている。 4月以降ようやくワクチン接種が始まり、国内外の交流が可能になりそうだ。 そこで北陸新幹線金沢開業効果が能登にどれだけ波及したか、わが羽咋市にとってはどうであったか。もつとその効果を波及させるために「七尾線の複線化」を提案する。 県議会では、七尾線の電化が成された平成3年に七尾選出の長県議が県議会で質問していますが、その後の議事録に記録がない。能登地区選出の県議で構成されている「能登開発促進協議会」の要望事項としては、現在も国土交通省への要望事項として「七尾線の近代化促進」がある。 本年3月に普通電車が新型車両に更新されるが、複線化への動きはない。 現在、羽咋駅と金沢駅間では特急電車は30分、普通電車では移動時間が約1時間かかる。新型車両の導入によりどれだけ短縮されるのか、期待したいところであるが、単線の状況では大きな短縮は期待できない。 複線化により乗車時間を30分以内にすることができると考える。 そのメリットは計り知れない。特に ①通勤通学の利便性向上による県都金沢への転出を抑制し、人口減少の抑制と定住の促進につながる。 ②北陸新幹線で石川県を訪れる観光客を能登へ誘導することで交流人口が拡大による地場産業の振興につながる。 など羽咋市が目指す地方創生につながる。 デメリットとしては、事業者であるJR西日本が事業予算の多寡が指摘している。 複線化により金沢までの移動時間が短縮され、かほく市から七尾市までの沿線市町にその効果は期待できる。ぜひ羽咋市が中心となって沿線市町に働きかけていただきたい。 これまでどのような検討がなされ、事業化に至っていないのかを検証し、地方創生に強く求められている現状においての有益性を検討いただきたい。 北陸新幹線は大阪延伸により東京圏に加え関西圏との交流が大きく拡大することが明らかである。この交流人口を能登に誘導することは地方創生の切り札になりえるものであり、沿線市町にとっても羽咋市と変わらぬ効果がある。ぜひとも羽咋市が中心となって働きかけてもらいたい。今後十年間で取り組むビッグプロジェクトとして総合計画に盛り込んでいただきたい。</p>	<p>ご指摘のありましたとおり、JR七尾線につきましては、能登地域において重要な交通機関となっており、近年では、北陸新幹線金沢開業の効果を能登へと波及させる二次交通機関として、本市にとっても、通勤・通学者や旅行者を含むさまざまな人々の移動手段を確保する重要な役割を担っております。 第6次総合計画の中では、基本計画「多彩な交流の推進」(P64、65)において、「交通新時代の到来」を背景とし、その施策の方針「交通新時代に向けた対応」を掲げております。具体的には「北陸新幹線の利用者誘導を目標とした施策の推進」や「鉄道やバスなど二次交通の充実と新たなモビリティ導入」に取り組んでいくこととしております。「JR七尾線の複線化」の重要性については認識しておりますので、沿線自治体等とともに国やJR西日本に対し引き続き要望してまいります。 なお、いただきましたご提案を踏まえ、基本計画「雇用の創出と働きやすい環境づくり」における施策の方針「誰もが働きやすい環境づくりに努めます」(P63)において、新たに通勤助成を拡充する内容を盛り込み、利用者がJR七尾線を利用しやすい環境を整えてまいります。</p>

No.	項目	意見の概要	回答
11	P66 【基本計画】 関係・移住・定住人口の拡大	他の市町では、若者の定住促進のために魅力ある施策をいろいろ行っております。羽咋市は今ひとつかと思えます。 ご検討のほどよろしく申し上げます。	貴重なご意見ありがとうございます。 若者の定住促進につなげるため、まず、子育て世帯を含めた若者世帯が安心して暮らせるような新たな住環境の整備に、優先的に取り組んでまいりたいと考えております。 また、本市では特に若い女性の市外流出が目立っていることから、女性ファーストのまちづくりについて特化し実施してまいります。特に、女性雇用の優遇や家賃補助の拡充を行うほか、近年のコロナ禍の状況を踏まえ、女性がテレワークで働くことができる就労支援も図ってまいります。 なお、これらの施策の方向性については、第6次羽咋市総合計画(素案)にも盛り込んでおります。 しかしながら、若者の定住促進につきましては、すぐには成果が現れないものであるため、その事業の進捗管理をしっかり行い、中長期的に施策の効果を判断してまいりたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。
12	P66 【基本計画】 関係・移住・定住人口の拡大	羽咋に帰省する人たちを関係人口(準住民)に位置づけて、地域(町)の活性化を図ることを提案します。 少子高齢人口減がますます進み、羽咋市では限界集落(高齢化率50%以上)が多くなっていきます。町単位でみると、2020年4月1日現在で、11町(17%)が50%を超えています。また45%以上では22町になり、近い将来に3分の1の町が限界集落になっていくと予測されます。限界集落とは、これまで各町会で担っていた社会的共同生活や町の維持が困難になってくる集落のことですが、人口予測からみても人口減少を止めることは難しく、かつ高齢化率の引き下げも見込められないのが現状ではないでしょうか。 そのような現状ではありますが、「親の様子を見に時々訪れる子ども、祭り、田植え・稲刈り・お盆に帰省する人たち」「その町に家や土地などがある人たち」などを関係人口(以下 準住民)とみて、町会とその人たちとゆるやかな関係を構築しながら町の活性化(準住民がもつネットワークや経験・能力等を活かして)を図ることができればと考えます。また、準住民がUターンするキッカケになる可能性もあります。 一方で準住民は、高齢の親を遠方にいながら心配したり、空家になった場合の問題や管理できない農地・山林等の負担が大きく、個人で解決しにくい問題です。しかし、準住民となって町会等と一緒にその問題を解決していくことも期待できます。 現在、そのことが町会や行政の大きな問題課題になっています。	貴重なご意見ありがとうございます。 「関係人口の創出」(P66)で、関係人口について明記させていただきましたが、関係人口とは、地方と多様な形で継続的に関わりを持つ人々を指しております。 この関係人口を拡大することは、移住ありきで人を呼び込むのではなく、まずは地域の魅力等を知ってもらい、地方と何らかのつながりを持ってもらう人を増やすことで、最終的な移住者の増加にもつなげる新たな地方創生のアプローチの仕方であると考えております。 関係人口につきましては、さまざまなあり方があると思います。ご提案にありましたように、地方へ帰省する人や地元ゆかりのある人に、町の活性化や地域づくりに携わってもらい、その関係性を強化することは、その方々を地元回帰につなげることはもちろん、地元の人々とともにその課題を解決していく連携体制の構築にも結び付くものと考えます。 新たな人材を活かした協働のまちづくりのあり方として、オンラインを取り入れた連携も可能であると思いますので、積極的に検討してまいります。

No.	項目	意見の概要	回答
13	P68 【基本計画】 学校教育の充実	<p>・英語教育や基礎学力について更なる向上も確かに大事です。しかしながら現状の施策でも教育委員会が仰っているような成果が上がっているのであれば基礎的な「知識・技術」は修得しているはず。次にやるべきは「問題発見・解決能力」「論理的思考能力」「成果の表現力」の向上につながる発展的な教育を展開すべきと考えます。</p> <p>更には「主体性・多様性・協働性」も必要になります。誤解を恐れずに言えば英語は単なる言語です。全国学力調査テストはあくまで基礎学力を測るテストの一つでこの結果を以って学力が高いというのは誤解を生じる恐れがあります。全国模試を受験するような母集団に入れば全く異なる結果になると思います。今後は発展的な教育或いはそれにつながる数学・科学にも力を入れるべきと考えます。公教育で難しいなら民間の力を利用することも考えるべきです。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>P68「教育環境の整備・充実」でも明記いたしましたが、教育の質の向上を図ってまいります。</p> <p>なお、基礎的な「知識技能」を基盤とし、英語をはじめ、数学、理科におきまして、習熟度による少人数指導やICTを活用した授業の実施などによって、学びの基礎向上に、より一層取り組んでまいります。</p>
14	P68 【基本計画】 学校教育の充実	<p>・学校、家庭、地域の関係について。</p> <p>少子高齢化、人口減少が加速している羽咋市では、保護者が子育て・親の介護・仕事・各種団体活動などを同時に担い且つ全体の人数が減り担う量も増えてかなり大きな負担になっています。加えて教師の働き方改革の名の下で学校が生徒を置き去りにして先生ファーストになっているように感じられ、或いはPTAに更なる負担増を強いています。更にはPTA内での負担の押し付け合い。任意の社会教育団体であるPTAは学校や教師の下請け組織ではありません。令和の時代にあった学校・保護者・地域やPTAの在り方・役割など改めて議論し、羽咋市独自で再定義するべき段階にあると強く思います。少なくともこれらが少子化の要因の一つになることは避けるべき。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>P68「学校教育の指導指針の推進」で、学校・家庭・地域が連携し、見守り育てる社会を実現していくと明記しましたが、子どもの健やかな成長には、社会が一体となって連携していくことが重要であると考えておりますので、ご理解願います。</p> <p>ただし、学校・保護者・地域やPTAの今後の在り方・役割などにつきましては、見直しも含め検討してまいります。</p>

No.	項目	意見の概要	回答
15	P72 【基本計画】 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	72p、公民館は、地域づくりの中核的な施設であり、住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくりの拠点として、これまで以上に役割を果たすことが期待される。—このような文言を入れる事を提案します。 また、73pにある主な取り組みとして、「現代的な課題・地域の問題課題に対する課題解決型学習・講座の開催」を加えることを提案します。 社会教育施設である公民館は、地域住民と一緒に地域をよりよく変革して行く役割を担っていると思います。そのため、「社会の要請」(＝地域づくり人材の育成、持続可能な地域社会の形成)に基づく学習の機会を提供し、地域住民や関係組織、行政等と地域と協働して住民主体の地域づくりを進めて行くことが求られていると思います。	貴重なご意見ありがとうございます。 ご提案いただいたとおり、地域住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくりの拠点として、これまで以上に公民館に求められる役割は大きくなると思われます。 いただきましたご提案につきましては、計画(P72、73)に盛り込ませていただきます。
16	P76 【基本計画】 地域防災力の強化	市の地域防災計画(3-62)に指定する(ダム、農地及びため池、邑知潟周辺排水機場等の農業用施設の災害は、一般公共用施設、宅地等にも広く被害を及ぼす恐れがあるため、平素から適切な管理を実施するとともに、老朽化施設等の改修、整備をする必要があります。)の追加をお願いします。	ご指摘いただきありがとうございます。 ご指摘の文言を要約追記(P76)させていただきます。
17	P76 【基本計画】 地域防災力の強化	最上位計画ですので、あまり細かい部分にまで記載がないのかと思いますが、自分の住んでいる地域は、近年のゲリラ豪雨が発生すると水害の危険性が非常に高いため、大雨警報が発令される度にいつも恐怖に感じております(具体には長皆川です)。 住民が安心して暮らせる街作りについて掘り下げてください。	ご提言ありがとうございます。 P76「地域と連携した防災体制づくり」の中で羽咋市強靱化地域計画による安全・安心な体制の構築を明記させていただきました。 近年、各地で多発する豪雨災害を踏まえ、羽咋市では個別計画として「羽咋市国土強靱化計画」を令和2年3月に策定し、その中で、石川県とも連携を取りながら、河川の整備や改修、補強及び堆積土砂除去、避難計画等について対策を推進する事項として盛り込んでおります。

No.	項目	意見の概要	回答
18	P80 【基本計画】 快適な道路網 の整備と管理	幹線道路の整備と同時に幹線沿いの用途地域の見直しも必要では。例えば国道415号羽咋バイパスは大半が青地と認識しておりますが、せつかく大きな人・物の流れを作ったなら最大限経済活動等に利用できるようにすべきです。	用途地域については、土地利用の動向、都市基盤施設等の整備状況等を踏まえたうえで決定しておりますので、当計画内での用途地域の見直しについて具体的に記載することは控えさせていただきます。 ご意見いただきました国道415号羽咋バイパスにつきましては、広域的なネットワーク機能を有する幹線道路として位置付けられております。 また、羽咋市都市計画マスタープランにおいては、良好な沿道型の商業や業務地の形成を図るとともに、農地の農業上の利用と農業以外の秩序ある土地利用との調整を図ることとしております。 なお、農業振興地域には用途地域の指定はできないとされておりますが、今後の開発動向や市街地形成の状況等を踏まえ総合的に判断してまいります。

※第6次羽咋市総合計画(素案)の内容を中心に回答させていただきましたので、ご了承願います。